

持続可能な社会のための食農教育学

食・農・環境に関する知識習得や体験、それを活かしたまちづくりへの参画等を通して、地球環境と調和のとれた社会システムの構築を

なかつか かな
准教授 中塚 華奈 (食農教育研究室)

E-mail kana.nakatsuka@setsunan.ac.jp

キーワード オーガニック 食農教育 コモンズ 都市農業 ナッジ理論



研究概要

背景

- サプライチェーンのグローバル化による生産から消費に至るまでの長距離化
- 食・農・環境への無関心層の増加と地域コミュニティの希薄化
- 地球環境の悪化、食べ物の品質低下

目的

- 地球環境と調和のとれた持続的な生産・流通・消費の仕組みの構築
- 都市と農村の双方の地域資源の活用と、市民の幸福度の向上をもたらす方策の提案

主な成果

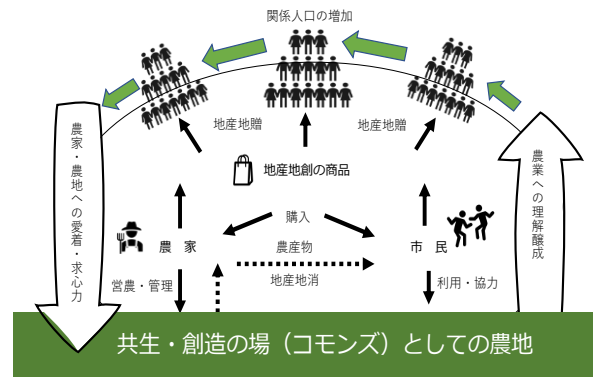
- エシカルなシグナリング効果を有する食品表示制度（有機JASなど）の課題抽出や改善のための考察
- 食・農・環境の多様な役割をより効果的に楽しく学ぶ食農教育プログラムやナッジの開発・実践
- 地産地消を発展させ、関係人口を増やすための地産地創・地産地贈の商品開発
- 都市農業をコモンズとするまちづくりへのアドバイス

連携への展望

【**農業・食品産業との連携**】オーガニックの生産・流通・消費に関する理論的および社会的な意義を明らかにし、販売促進と外部経済効果の増加をもたらす取組につなげます。

【**まちづくり関連団体との連携**】地域農業への理解醸成と農家や農地の関係人口を増やし、市民の幸福度の向上を目指した方策を提案します。

【**科学コミュニケーション**】オーガニックの普及・啓発に資する人材育成に取り組みます。



地産地消（創・贈）による農地活用の仕組み



食べることで都市農地を守る「地消地守」



エシカル消費に役立つシグナリング



アピールポイント

食農教育学と情報経済学の理論を援用し、地球環境への負荷軽減に資する経済活動を実践するためのシステム構築やプログラム開発を行います。